

# 韓非子 カンピシ ? ~ 233B.C.

中国、戦国時代末期の思想家。姓は漢、名は非。

短いながら『史記』老子韓非列伝に韓非の伝記があり、その生涯を知ることができる。『史記』によると、韓非は韓の貴族の子弟として生まれた。吃音(きつおん)であったが、書物を作るのが巧みだったという。韓非は、はじめ性悪説を唱えた儒家「荀子(じゅんし)」に師事した。同門に、秦(しん)の宰相となった李斯(りし)がいる。当時から、李斯は韓非の才能にかなわないと思っていたらしい。

荀子の唱えた礼思想は、法家の思想に近いものであった。「刑名法術の学」を喜んだ韓非は、荀子の礼を発展させ、法至上主義を唱えた。法家思想は、斉(せい)の桓公(かんこう)の宰相管仲(かんちゅう)を祖とし、申不害(しんふがい)・商鞅(しょうおう)を経て、韓非により大成するに至った。

韓非は、秦の圧迫を受けていた祖国漢に対して書状をもって献策したが、漢王は彼の意見をとらなかつた。逆に秦の始皇帝に招かれた韓非は、同門だった秦の宰相「李斯」の讒言(ざんげん)にあり、獄中で服毒自殺した。しかしながら、韓非の思想は、秦王朝が中央集権の封建帝国を打ち立てる指導的理論となり、後世に大きな影響を与えた。

## Great Books 07 韓非子(かんぴし)

中国、戦国時代の思想書。主として韓非の言説を集めた書。20巻55編。編者不明。

孤憤(こふん)・説難(ぜいなん)・和氏(かし)・姦劫弑臣(かんきょうししん)・五蠹(ごど)・顕学(けんがく)の諸篇は、韓非の著作に最も近いとされる。秦の始皇帝は、孤憤・五蠹の両篇を読んでいたく感激し、韓非と会ってつきあうことができたら死んでもうらまぬとまでと言ったという。

韓非は、商鞅の「法」・申不害の「術」・慎到(しんとう)の「勢」といった先人の思想を体系化し、法家思想を完成させた。法家思想の特徴は、国の安定と発展を求めるために、「道徳」ではなく「法」という強い統制力を使う点にある。韓非は、「法」を人民に向かって公布される実定法と定義し、その中心に刑罰を置いた。「法」の統制下において、人民は君主に奉仕するために存在する。これに対して、君主は公平無私と遵法を要求され、たとい君主であっても「法」の決定は覆せないものとした。

韓非によれば、君主は自分の持っている「勢」を掌握し、客観的な基準である「法」と、胸中に秘めながら臣下の無能を見抜く「術」とを併用すれば、臣下を自在に操ることができるという。そしてその際に、罰と賞(刑と徳)の「二柄(にへい)」は、臣下操るのに有効であると主張した。君主に逆らえば処罰され、君主に功があれば恩賞を受ける、要するに君主と臣下の関係は、信頼関係ではなく利害関係において成立すると考えたのである。「形(実質 = 職分)」と「名(名目 = 職名)」を一致させ、一致しない場合は処罰するという、いわゆる「**形名参同**(けいめいさんどう)」の思想は、君主が「法」を冷厳に適用し支配を確立するためには必要な考え方であったと言えるだろう。

韓非はまた、「五蠹(蠹とは木食虫の意)」において、(1)道徳をふりかざして法を批判する学者、(2)詭弁を弄する遊説家、(3)法を犯す侠客、(4)賄賂をむさぼる近侍者、(5)農夫の利をむさぼる商工業者を法治を害する五つの害虫だとみなし、君主がこの五蠹の民を除かなければ、国が滅んでも不思議はないとした。

## Key Word 形名参同

むかし、韓の昭侯酔ひて寝ねたり。典冠なる者、君の寒きを見るや、故に衣を君の上に加ふ。寝より覺めて説び、左右に問ひて曰く、「誰か衣を加ふる者ぞ」と。左右対へて曰く、「典冠なり」と。君因りて典衣と典冠とを兼ね罪せり。其の典衣を罪せるは、以て其の事を失ふと為せばなり。其の典冠を罪せるは、以て其の職を越ゆと為せばなり。寒を悪まざるにあらず、以て官を侵すの害は寒よりも甚だしと為せばなり。故に明主の臣を畜ふや、臣は官を越えて功有るを得ず、言を陳べて当たらざるを得ず。官を越ゆれば則ち死し、当たられれば則ち罰せらる。業を其の官に守り、言ふ所の者貞ならば、則ち群臣朋党し相為すを得ず。

(『韓非子』二柄)

(現代語訳)

むかし、韓の昭侯が酔ったまま眠ってしまった。典冠(冠を世話する係)が主君の寒そうに寝ているのを見て、衣を君の上に掛けた。(昭侯は眠りから覚めて喜び、左右に仕える家来に、いったい誰が衣を掛けてくれたのかと質問した。左右の者は「それは典冠です」と答えた。そこで、昭侯は典衣(衣を世話する係)と典冠とを両方とも処罰した。典衣を処罰したのは、その職務上に手落ちがあったと考えたからである。典冠を処罰したのは職域を越えたと考えたからである。寒さを厭わなかったわけではない。官職を侵す弊害は、寒いこと(の弊害)よりも甚だしいと考えたのである。故に、明君が臣下を養う場合、臣下は官職を越えて功績を得ることができず、意見を述べてその通りにできないのも許されない。官職を越えれば死罪になり、その通りにできなければ処罰される。その職分の範囲を守り、言うことが業績と一致して正しければ、臣下は仲間を作り一緒になって悪だくみをするのができないのである。

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 韓非子 上・下(ちくま学芸文庫) / 本田濟(訳)  
筑摩書房 1996年刊 <124.57/1/1~2> 資料番号 20872925, 20872933  
\* 『韓非子』の平易な現代語訳版。
- 📖 韓非子 第1冊~第4冊(岩波文庫) / 金谷治(訳注)  
岩波書店 1994年刊 <1124/カ/1~4>
- 📖 全釈漢文大系 20~21 韓非子上・下 / 宇野精一, 平岡武夫(編) 小野沢精一(著)  
集英社 1975・78年刊 <122F/30/20~21> 資料番号 10204402, 10204410
- 📖 新釈漢文大系 11~12 韓非子上・下 / 竹内照夫(著)  
明治書院 1960・64年刊 <082/14/11~12> 資料番号 12785572, 12785580

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 新釈漢文大系 88 史記8(列伝1) / 水沢利忠(著)  
明治書院 1990年刊 431p <082/14/88> 資料番号 20215000  
\* 老子韓非列伝に韓非の伝記がある。
- 📖 鑑賞中国の古典 第5巻 荀子・韓非子 / 片倉望, 西川靖二(著)  
角川書店 1988年刊 439p <928Y/6/5> 資料番号 20144861
- 📖 韓非子を読む / 千田九一(著)  
勁草書房 1982年刊 228p <128.6P/6> 資料番号 12302477
- 📖 人類の知的遺産 11 韓非 / 貝塚茂樹(著)  
講談社 1982年刊 236, 7p <280.8K/13/11> 資料番号 10497188
- 📖 中国思想(講談社学術文庫) / 宇野哲人(著)  
講談社 1980年刊 320p <122/44> 資料番号 10204758  
\* 韓非子以外に、商鞅・申不害等の解説がある。
- 📖 現代人のための中国思想叢書 5 不信の哲学 / 稲田孝(著)  
新人物往来社 1973年刊 236p <122F/26/5> 資料番号 10203271
- 📖 中国の思想 第1巻 韓非子 改訂増補 / 西野広祥, 市川宏(訳)  
徳間書店 1973年刊 315p <122.08/1/1> 資料番号 21302708
- 📖 世界の名著 10 諸子百家 / 金谷治(編)  
中央公論社 1966年刊 574p <080/5/10> 資料番号 12784286
- 📖 新・韓非子物語(中国古典物語) / 千田九一(著)  
河出書房新社 1958年刊 238p <128.6/4> 資料番号 10207892